

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

# よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.49 2011.9.1



## 福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会  
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10  
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831  
URL <http://kikusui-net.jp>



## 第三回しらぎく荘夏まつり

7月30日(土)菊水5条2丁目の児童福祉施設札幌市しらぎく荘で「第三回夏まつり」が開催されました。

この施設は母子生活支援施設で、札幌市から札幌市母子・寡婦福祉連合会が指定管理者として運営を委託され、現在、離婚による経済的困難や児童の養育環境に恵まれない15組の母子世帯が利用しています。

この祭りは、日頃仕事で忙しく子どもと







一緒に遊ぶことの少ないお母さんと子ども、それに入居者相互の親睦の機会をつくるために施設が企画したものです。また、それに加えて地域の中で暮らしている住民の立場で町内会の皆さんと交流を深めるのが目的と恩田施設長は考えています。



第一部は、隣の菊水公園で子どもたちを相手にゲーム大会が行われました。近所の子どもたちを加えて60人以上の子どもが参加し、ヨーヨー釣り、輪投げ、的当て、サイコロくじ引き、バルーン風船などで遊びました。

第二部は午後5時半から西町集会所で親睦会が行われました。施設利用者の親子、町内会役員、来賓として今年は主任児童委員さんと黄色いレシート運動でお世話になっているマックスバリュ菊水店長などが参加しました。



上田札母連会長から、「日頃お世話になっている町内会の皆様と、このような形で懇親ができることを感謝しています。施設利用者の皆さんが社会に受け入れられ、一日も早く地域の一員として自立していけることを望んでいます」との挨拶で始まり、真鍋町内会会長の挨拶のあと、プア・カラウス・フラスタジオの皆さんによるフラダンスと、ウクレレ・トキ・サークルの皆さんのウクレレ演奏で楽しみました。

## 地域の祭り二題と福祉の融合

### 南連会町内会夏祭り

8月6日(土)午後2時から菊水のぎく公園で、南連町主催による恒例の夏祭りが行われました。

このお祭りの冒頭で和太鼓の演奏がありました。社団法人札幌市手をつなぐ育成会の会員の方による育成太鼓でした。おそ



ろいの前掛け脚絆と、きりりと締められた白い鉢巻スタイルで、勇壮に打ち鳴らす太鼓の音色はお祭りの開始を告げるものとして、祭りに参加した人々の心に響き渡りました。



手をつなぐ育成会は、知的障がい者の権利の擁護と社会参加の促進を目的に活動している団体です。その事業体として社会福祉法人札幌親会が設立され、事業の一つである「菊水ワークセンター」が南連町地区内にあり、日頃お世話



になっているお礼を兼ねて、毎年参加させていただいています。

今年のお祭りは真夏日の好天に恵まれ、お祭りのプログラムがジャンケン大会、ラムネ早飲み大会と進みましたが、あまりの暑さに人出はいまひとつの状態でした。

午後6時から夜の部としてカラオケ大会とビンゴ・ゲームが行われました。昼間に来れなかったことの反動か、用意された客席は超満員で、焼き鳥や焼そばなどでビールを飲む人々であふれてい



ました。いよいよお楽しみのカラオケ大会です。今年は音楽ボランティア「リズム・ファンタジー」の皆さんによる歌謡ショーで始まり、引き続き「生オケで歌う」という贅沢な大会になりました。

おまつり参加者の中に、今年も一組の親子の姿を見ることができました。そうです、サワちゃん(4年生)とホノカちゃん(3年生)の二人が、ご両親とお友達に囲まれてお祭りを楽しんでいます。去年は祭りの主催者がお招きしたこともあり、浴衣姿でちょっと気取って参加しましたが、今年をあえてお招きしませんでした。ゆっくりと祭りを楽しんでいただこうという配慮があったのだと思います。そのせいかとでもリラックスした雰囲気を感じました。

よつクロ読者の皆さんは既にご承知のことと思いますが、お二人は筋萎縮症で手足が不自由です。車椅子の状態での生活し、介護ヘルパーやボランティアの援助により幌東小学校の普通教室で元気に勉強しています。

## 上町連合町内会夏まつり

8月7日(日)午後1時から白石公園で、上町連町主催の夏祭りが行われました。

好天に恵まれ大勢の参加者を前に、まず子どもたちのゲーム大会が始まります。体をゆすり万歩計の数字を競うゲーム、バナナを箸で食べるゲームなどユニークなゲームが続きます。祭りが盛り上がり



ると、今度は大人のカラオケ大会が始まります。昼間から艶かしいムード歌謡が会場に流れると、焼き鳥やビールの売れ行きが上がります。

会場には、今年も「こまちの郷菊水」のお年寄りの姿が見えます。カラオケを聴きながら、持ってきたジュースで乾杯し、トウキビや







先頭がハートの家伍番館の高齢者

お菓子を美味しくように食べました。

「こまちの郷菊水」は、地域密着型小規模多機能特別養護老人ホームで29人の高齢者が利用しておられます。

夕方、少し涼しくなったころ「ハートの家伍番館」のお年寄りも参加しました。その頃から始まった盆踊り大会に積極的に参加し、昔とった杵柄で見事な踊りを披露されました。

「ハートの家伍番館」は認知症専用のグループホームで定員は18名です。



## 障がい者団体との懇談

8月9日(火)午前10時、菊水3条4丁目の(有)エンパワーオフィス会議室で、「災害時要支援者避難支援対策」に関する情報収集を目的に障害者団体との予備懇談会を行いました。

よつクロ48号で紹介した登り口倫子さんの仲介で、細野福まち運営委員長、佐藤事務局長とNPO法人障害者自立生活センターのスタッフであり、札幌市地域福祉社会計画策定委員会の委員である岡本直樹さんとの懇談の機会がもたれました。

岡本さんは、札幌市地域自立支援協議会の委員と、同白石分会の分会長も兼務しておられます。地域の町内会が災害時避難支援の支援母体として、障がい者の情報や支援のノウハウを得るための重要なキーパーソンになる人です。

初めての懇談でしたので、お互いが抱えている問題を語り合いました。

登) 東日本大震災で災害時の備えが必要であることを痛感した。

岡) マンションの避難訓練に参加したとき、障がい者の方は遠慮してと言われた。

福) 初めから障がい者名簿作成を目的にせず、近くの何人かの対象者を探し出し、その人をモデルに援助の手段を考えたい。

福) 名簿を公開することが個人情報保護法がネックであるとすれば、せめて菊水地区の身体障害者・知的障害者手帳交付数などの情報を提供してほしい。

岡) 東日本大震災では南相馬市が障害者手帳交付者名簿を公開し、ボランティアが安否確認した。

福) 自立支援研修会で、町内会に加入するなど地域との関係を重視するよう説明して欲しい。



## よつクロ5年目に突入

平成19年6月15日に創刊号を発行してから、今年の6月で満4年になります。最初は季刊でしたが、その翌年4月からは月刊とし、8号からこの49号までの通年月刊を達成することができました。また、5年目に入る46号からは、一部のページをカラー印刷とし、見やすく読みやすい紙面にしました。

編集方針はよつクロの基本理念である「見つめ愛」「触れ愛」「支え愛」「学び愛」を柱に、写真をできるだけ多く使い、読みやすく判りやすい内容とすることとしています。福まち活動の事業だけではなく、地域の中での福祉に関する話題をいち早くお伝えすることにも務めてきました。

全戸配布ができず、回覧板方式でご覧頂いていますが、お手にとって沢山の皆さんにご愛読いただけるような紙面充実に努めますので、今後ともよろしくお願い致します。

編集委員一同